



野鳥さが

発行者：宮原明幸 編集者：馬場順一 イラスト：中村さやか

日本野鳥の会佐賀県支部



彼女にプロポーズ中のコアジサシ君 (東よか子鳥/撮影：徳淵義実さん)

野鳥さが217号 主な内容

■ 役員会報告	2ページ
■ 支部からのお知らせ	3ページ
■ 探鳥会リーダーズフォーラム in 名古屋 参加報告	4ページ
■ 渡りの点と線をつなぐ地域フォーラム	5ページ
■ 各地の観察会報告	7ページ
■ 皆さんからのおたより	12ページ
■ 皆さんからの野鳥&生きもの情報	20ページ
■ 最近の新聞・情報誌の記事から	20ページ
■ 有明海の満潮時刻	21ページ
■ 近隣地区の観察会情報	22ページ
■ 観察会会場までの案内	23ページ
■ 観察会などのお知らせ (2018年6月～8月)	24ページ



役員会報告

(事務局:島田洋)

【日 時】2018年4月22日、2018年5月13日

【出席者】(4/22) 宮原明幸、青柳良子、加藤芳隆、中島由美子、中村さやか、蒲原留美、島田洋 (5/13) 宮原明幸、青柳良子、馬場清、中原正義、江口富美子、島田洋

【主な話し合い項目】 (既に終了した案件については割愛したものがああります)

(1) 全国鳥類繁殖分布調査について

- ① 5月下旬から6月にかけて全国鳥類繁殖分布調査を行う。
- ② 環境省が主体となる調査である。佐賀県の調査は佐賀県支部が担当する。
- ② 担当者や担当地域などの関係で一部調整中である。

(2) 総会議案書の検討・支部運営について

- ① 6月3日の総会の議案書について内容の検討を行った。
- ② 観察会初参加の方には住所や電話番号を確認していく。支部報送付や連絡のため。
- ③ 傷病野鳥の保護に関しては、佐賀県とも協議を重ねたい。
- ④ 決算、予算案の点検及び協議。
- ⑤ 他の自然保護団体などとの観察会等の共同企画しようと提案があった。
- ⑥ 役員人事についての意見交換。

(3) 鹿島での講演会について

7月8日(日) 鹿島市の「エイブル」で渡り鳥の保護に関する講演会開催予定。
詳細は事務局長の中村さやかさんへお尋ねください

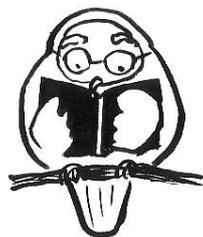
(4) 生物多様性保全活動について

佐賀県より生物多様性保全活動について佐賀県支部へ参加協力の誘いがある。
子供探鳥会などの企画を検討する。

(5) 25周年行事

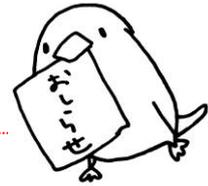
来年は佐賀県支部創立25周年となる。記念行事の開催を検討する。

(6) その他、役員人事や今後の行事予定などについての協議を行った。





支部からのお知らせ



◆ ようこそ 佐賀県支部へ！・・・支部入会者情報

前号（216号）でお知らせした以降の入会者を「大歓迎！」の気持ちを込めてご紹介いたします。

4月入会 秀島 泉さん（多久市多久町）
サカ枝さん（同上）

以上2名の方の5月中旬現在でのご入会が確認されました。
佐賀県支部の会員は現在218名です。

野鳥の会会員の皆様！

皆様の周りに、花や昆虫など自然の生き物に興味・関心をお持ちの方はいらっしゃいますか？ 観察会などにお誘いしてみてください。

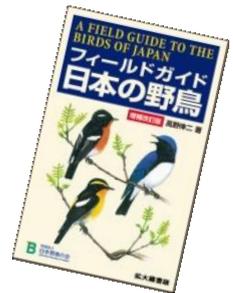
野鳥の会は「いつでも入会OK」です。

日本野鳥の会とは

「野鳥も人も地球のなかま」を合言葉に、野鳥や自然の素晴らしさを伝えながら、自然と人間とが共存する豊かな社会の実現を目指し、活動を続けている自然保護団体です。

◆ 物資販売係からのお知らせ

「フィールドガイド（増補改訂新版 3,888円）」4冊入荷しました！
リニューアルされ、さらに見やすくなりました！ 前版を長く使用されていらっしゃる方は新調されてみませんか？（通常、別途送料をいただいておりますが、今回は送料無料で販売いたします。）



※商品の取り寄せご相談承ります

日本野鳥の会カタログから商品の購入をお考えで、お急ぎでない方は佐賀県支部を通して発注されませんか。個人で発注される場合より送料負担が軽くなります。1回の注文につき送料760円が必要となりますが、注文金額が20,500円を超えると送料が無料となります。支部からのまとめ注文で送料負担を軽くしませんか？

ご注文、お問い合わせは「物資販売担当：蒲原（TEL 090-5294-3103）」まで。

支部総会開催のお知らせ

2018年度支部総会を下記日程で開催します。

【日時】6月3日（日）10:00～ 【場所】佐賀市大和町石井樋公園の「水ものがたり館」

※当日は09:00から石井樋公園観察会を行います。観察会終了後、引き続き御参加下さい。

また、参加される方は事前に送付いたします「支部総会議案書」をご持参下さい。





探鳥会リーダーズフォーラム in 名古屋 参加報告 (報告: 蒲原留美)

2018年1月20日(土)から21日(日)にかけて開催されたリーダーズフォーラムに会員の山中美由起さんと一緒に参加させていただきました。

このフォーラムは探鳥会リーダーを対象として開催され、グループディスカッションや分科会への参加により、観察会においての疑問、悩み等を共有し、より良い観察会を目指すことを目的としており、今回は主に鳥取、岡山から以東の支部、九州は佐賀県支部からの参加となりました。

グループディスカッションでは与えられたテーマを元にランダムに作られたグループで、話し合い、発表を行いました。テーマを元に各支部での現状等を話すことにより、共通の問題点などあり、支部は違っていても同じ野鳥の会のメンバーであるという連帯感を持つことができました。また、小さい子供さんを抱えたお母さんの為に、子育て経験者が子供を預かるなど、年齢、経験を活かした観察会のアイデアが出されました。

分科会は6種類あり、私はA-1、B-1に参加いたしました。

- A-1「参加者から支援を引き出す！ツバメの「ねぐら入り観察会の工夫」
- A-2「ヤング探鳥会は支部に何をもちこたすのか？人材発掘？先行投資？会継続？」
- A-3「野鳥の会育ちの子どもたちが社会を変える」
- B-1「お試し会員を増やそう！探鳥会の進め方」
- B-2「さて、困った、野鳥の会の底力～サギ調査の課題を解決する～」
- B-3「葛西臨海公園オリンピック問題からラムサール登録へ～登録後の利活用を考えよう～」

A-1では、非会員が多く参加するこの観察会で入会をしてもらうにはどうするかというテーマで、各支部、ねぐら入り観察会の開催状況、開催においての問題点、必要点などを挙げ、解決策を話し合いました。ねぐらが分かれば必ず観察することができることから、観察会を数回行っている支部が多く、複数回開催により見るチャンスが広がり、非会員の方にも大変好評であるとのことでした。他にも、「ツバメ3兄弟」のネーミングで、住宅街に巣をつくるツバメ3種類を探すユニークな観察会の紹介、観察会の前後に勉強会を開くなどのアイデアも出され、他支部の内容が解決に繋がっていくような印象を持ちました。また、B-1では「マインドフロー」という方法から、入会を営業にたとえ、「他に負けない商品＝観察会での楽しさ>他の趣味」という式により、支部の観察会に参加したことで良かったことは何か等を各自挙げるにより楽しい観察会の在り方、進め方を考える内容となっていました。勧誘より会話を。会話とともに感動のある観察を。参加者の皆さんにより楽しんでもらえる観察会づくりが入会に繋がっていくことを再認識するとともに、その難しさを強く感じました。

2日間をとおり、他支部も共通の問題点(悩み)があり、それぞれの支部で創意工夫を持ち観察会を楽しめるものにしようとする努力があることが分かりました。

また、今回、山中さんに会員の目線で意見を多く出していただいたことが、他支部の方々からも大変好評で、リーダーズフォーラムへの参加の仕方としても、とても良い結果となりました。(山中さんありがとうございました。)



渡りの点と線をつなぐ地域フォーラム (報告: 島田 洋)

【はじめに】北極圏でのヘラシギとシギ・チドリ類の繁殖状況についてロシアの研究者の講演を聴く機会があったので報告する。

【日時】2018年3月18日 午前11時～正午ごろ

【会場】佐賀市東与賀町 干潟公園内 紅楽庵

【主催】ラムサール・ネットワーク日本

【共催】シギ・チドリ類ステッピング・ストーンズ

【講演者】

- ① エフゲニー・シロエチコフスキー博士 (生物学博士)
ロシア天然資源省全ロシア研究所の北極圏生物多様性保全センター長
東アジア・オーストラリア地域フライウェイパートナーシップ
ヘラシギ特別部会議長
- ② エレナ・ラッポ博士 (地理学博士)
ロシア科学アカデミー地理学研究所上席研究員

【講演内容】

朝は9時から干潟の観察会。お二人は観察会にも参加されました。

講演会の会場は干潟公園の紅楽庵の和室。ロシア人のお二人は英語で講演をされました。通訳は柏木さん。

佐賀県支部の中村さやかさんが簡潔にお二人を紹介した後さっそく講演が始まりました。

エレナ・ラッポ博士の講演

- ① 北極圏のシギ・チドリ類の研究をしてきた。一冊の本にまとめたので紹介します。
- ② ヘラシギの繁殖地は、シベリアのチュコト半島とカムチャツカ半島のごく限られた地域と言われていたが、今はチュコト自治区のマエナピユビナだけである。
- ③ ヘラシギが営巣するのは海岸の砂州のような場所である。苔のような植物の上に営巣する。
- ④ 1970年代には世界中で2000つがいたとされる。急速に減少した。
- ⑤ 現在地球上にはわずかに約200つがいしか生き残っていない。絶滅寸前である。
- ⑥ 遺伝子研究からは、2万年前には10000～15000羽がいたと推測されている。
- ⑦ 約2万年前は氷河期であった。氷河期の終了とともに海面が100m上昇した。
- ⑧ このため繁殖地が大幅に減った。個体数の減少の一因であろう。
- ⑨ チュコト半島の繁殖地で営巣状況を調査した。数年前には45の巣があったが、現在は14しか確認できなかった。
- ⑩ ヘラシギには天敵も多い。キツネ、シリス、カラス、カモメ類、ツルなど。
- ⑪ 一つがいのヘラシギは4個の卵を産む。無事に成鳥になるのはせいぜい1羽である。
- ⑫ このままでは絶滅は確実である。
- ⑬ 生存率を高めるために、巣から卵を採取して、人工的に保護する試みを行っている。



- ⑭ これまでに 109 羽のひなをかえすことに成功した。
- ⑮ 幼鳥だけで渡りをする。渡りのルートや時期は遺伝子に書き込まれてると言っている。
- ⑯ 繁殖地を守るために啓もう活動などを行っている。

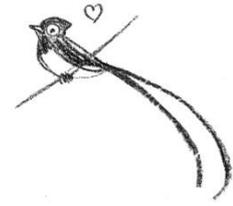
エフゲニー・シロエチコフスキー博士の講演

- ① 地球上には 8 つの主な渡りのコースがある。フライウェイと呼ぶ。
- ② 東アジア～オーストラリアのルートは絶滅の脅威が極めて大きい。
- ③ そのフライウェイで野鳥の絶滅危惧種は 46 種類に及ぶ。
- ④ ヘラシギは、チュコト半島→日本→中国→東南アジアというフライウェイを渡る。
- ⑤ 渡りのフライウェイを保護するために特別委員会が創立された。
- ⑥ 様々なNPO、研究会、関係国が参加して保護活動をサポートしている。
- ⑦ 日本では今日、通訳をされている柏木さんがこの活動を担当している。
- ⑧ 安定同位体を用いて越冬地を調査するなどの研究を行った。
- ⑨ 同じ原子番号をもつが中性子の数が異なるものを同位体という。
- ⑩ 例えば ^{12}C と ^{13}C のような関係で、放射線を出さない同位体を安定同位体という。
- ⑪ 安定同位体の比率などで食品の産地などが分かる。これを応用した技術。
- ⑫ ヘラシギの主な越冬地は中国南部や東南アジアであると判明した。
- ⑬ 大陸を横断するのか海岸沿いに移動するのかが長くわからなかった。
- ⑭ ヘラシギに重さ 1.7 g の GPS 搭載の発信器を取り付けて調べた。大陸を横断することが分かった。
- ⑮ ヘラシギにとっての重大な脅威がいくつもある。
- ⑯ 越冬地の喪失、密猟、繁殖地の破壊などが重大な脅威である。
- ⑰ ヘラシギ、オバシギ、コオバシギ、オオソリハシシギなどすべて減少している。
- ⑱ 中国、韓国、日本などでは、干潟などの自然の海岸線が激減している。
- ⑲ 中国黄海の海岸線は、すでに半分以上が、埋め立てられてしまった。
- ⑳ 韓国のセマングム干拓地は諫早湾干拓の 11 倍の広さである。
- ㉑ 自然の海岸線を世界遺産に指定して野生動物を保護しようとする動きがある。
- ㉒ 密猟も重大な脅威である。
- ㉓ 中国やミャンマー、バングラデシュなどで毎年 1000 万羽～2000 万羽が犠牲になる。
- ㉔ 密猟に替わる生活手段を提供することで、密猟の 60～70% が減らせるだろう。
- ㉕ 中国では、シギなどはレストランに売られている。対策が必要。





各地の観察会報告



■鬼の鼻山公園観察会報告（多久市）

【日 時】 平成30年3月25日

【参加者】青柳隆、青柳良子、朝田清子、内田英丸、江口富美子、大川幸子、大藤和浩、大藤孝子、加藤芳隆、蒲原留美、河口秀博、川原直嗣、古賀郁香、千住利夫、田辺憲子、徳淵義実、長岡保、永島博、中村葵、中村匠、中村奈巳、橋本泰博、馬場清、原秀親、久富文江、秀島泉、秀島サカ枝、佛坂安恵、佛坂利夫、松尾久則、水田稔、山中美由紀、渡辺雅子、宮原明幸（案内役）

【観察された野鳥】キジ、コジュケイ、キジバト、コゲラ、ハシブトガラス、ヤマガラ、シジュウカラ、イワツバメ、ヒヨドリ、ウグイス、エナガ、メジロ、シロハラ、ツグミ、ルリビタキ、ジョウビタキ、スズメ、アトリ、カワラヒワ、マヒワ、ウソ、ホオジロ、ソウシチョウ

【案内役より】

春、真っ盛り！ ウグイスも上手く歌っています。

季節も好くなり参加者は34名、ソロソロ歩き回り鳥が逃げてしまいました。

駐車場に戻り、周りを観察することに。3分咲きの山桜にアカウソ4羽、シジュウカラが歌い、咲き残りの椿にはメジロ・ヒヨドリが蜜を求めて出入り、芽吹き出した木々にはコゲラにエナガ、マヒワまで。

以外と、見ごたえのある探鳥会となりました。

参加者の多い探鳥会では2班～3班に分かれて回る、などの工夫が必要ですネ！

リーダーの2名体制、進めないとですネ！

■小城公園 お花見懇親会報告（小城市）

【日 時】 平成30年4月1日

【参加者】河口秀博、高山昭彦、水田稔・奥さま、古賀郁香、田辺憲子、吉澤進、橋本泰博、川上武彦、宮原明幸、江口富美子、永島博、蒲原留美、大川幸子、大川裕也、加藤芳隆、青柳隆、青柳良子（案内役）

【案内役より】

新年度の始まりは支部初の行事「お花見会」です！ 地元の青柳は「初めて小城公園にいらっしゃる方にも分かりやすい場所、地面が平らである場所」ということで「梅林」と決めました。満開をやや過ぎたところで、たくさんのお花見客が予想されたので、8時頃敷物を持って場所取りに行きました。やや日陰になる一番いい場所はすでにシートやテーブルがあっただめ！ 日当たりが良すぎるけど見つけやすい場所として、小城公園のシンボルである「大角榎」の横に決め（広すぎるかな？）と思いながらも大きめのシートを敷き、場所取りは終了。

天気は快晴・無風 絶好の「お花見日和」です。

10時半からの予定でしたが、10時前から集まり始めました。一番乗りは遠く柳川からの河口さん！ しかも入会して間もない方です。続いて高山さん！

この方も新会員です。次々に集まり始め、広すぎるか？と心配したシートでは足りず、敷き足して広げました。

10:30「初顔合わせ」の方もいらっしゃるので自己紹介。各自持参の飲み物・食べ物で歓談がスタート！写真を撮ろう・・・との話が出たのですが、「大授掬で観察してから行く」という加藤さんを待とうということになり、写真は後回しに。江口さん手作りの「山菜おこわ」や加藤さんからの「五目いなり」などの差し入れを美味しくいただいているうちに、写真はすっかり忘れてしまいました。

すぐそばの木にサンショウクイがほんの一瞬観えたとか、イカルやウソの声が聞こえたとか、鳥情報もたくさん話題に上りましたが、一番盛り上がったのは「佐賀弁」についてでした。（佐賀弁にも標準語と方言が有るとか？）

ー今日はエイプリルフール！！ー 信じるか信じないかは各自に任せて、とにかく笑いました（^◇^）

2時過ぎに「そろそろお開きにしようか・・・」「あっ写真！」となった時にはすでに何人かの方がお帰りになってしまい残念！（すみませんでした！）

最後まで残った方だけで記念撮影をしました。

支部初の試み懇親会は18名もの参加者でした。「楽しかったね！」との感想を皆さんが持って下さったようです。今年度計画されるたくさんの観察会でも会員の絆を強め、楽しく有意義な観察会にしたいものですね。

そして、会員が一人でも多くなりますように・・・と願っています。

■東よか干潟（大授掬）観察会報告（佐賀市）

①【日 時】 平成30年4月15日

【参加者】川原直嗣、竹田澄子、友岡周一、宮原明幸、内田英丸、大林岳史、今泉隆、今泉りえ子、吉澤進、中村さやか、中村翠、原秀親、水田稔、永島博、久富文江、志田和之、志田かおる、志田晃士朗、津山悦子、大川幸子、朝田清子、松尾浩二、高山昭彦、中島修、中島由美子、青柳良子、新田直哉、川上武彦、蒲原留美、田中丸雅雄（案内役）

【観察された野鳥】ツクシガモ、アオサギ、ダイサギ、クロツラヘラサギ、ミヤコドリ、メダイチドリ、ムナグロ、ダイゼン、キョウジョシギ、トウネン、ウズラシギ、ハマシギ、コオバシギ、オバシギ、エリマキシギ、オオハシシギ、ツルシギ、コアオアシシギ、アオアシシギ、ソリハシシギ、オオソリハシシギ、ダイシャクシギ、ホウロクシギ、チュウシャクシギ、セイタカシギ、ユリカモメ、ズグロカモメ、セグロカモメ、コアジサシ、ツバメ

【案内役より】

朝早い8時の集合でしたが、多くの方が集まりました。風が強く寒い天候でした。

本日のテーマは「夏羽になったシギ・チドリを見よう。」

オオソリハシシギ、メダイチドリの赤くなった胸、ハマシギの黒くなった腹、ダイゼン・ムナグロの胸も黒くなり、夏羽になった鳥たちが観察されました。

満潮時にも干潟が残り、柵の近くまで鳥たちが群れる。トウネンの首もうっすらピンクに、冬を越したオオハシシギも赤みを増す。潮が引き、鳥たちも沖合に



移動し始め、観察会を終了する

②【日 時】 平成 30 年 5 月 1 日

【参加者】中島修、中島由美子、水田稔、水崎清美、福田康典、川原直嗣、青柳隆、青柳良子、吉澤進、山口源貴、川上武彦、徳渕義実、西田京子、富永誠、大川幸子、川部静也、馬場清、高木義彦、高木宏子、村岡ゆかり、甲木弘美、山下哲郎、田辺憲子、脇田雅江、宮崎明美、江口富美子、田中丸雅雄（案内役）

【観察された野鳥】ハシビロガモ、アオサギ、ダイサギ、ヘラサギ、クロツラヘラサギ、ミヤコドリ、メダイチドリ、ダイゼン、キョウジョシギ、トウネン、ウズラシギ、ハマシギ、サルハマシギ、コオバシギ、オバシギ、オオハシシギ、コアオアシシギ、アオアシシギ、キアシシギ、ソリハシシギ、オグロシギ、オオソリハシシギ、ダイシャクシギ、ホウロクシギ、チュウシャクシギ、ズグロカモメ、セグロカモメ、コアジサシ、ミサゴ、ハシブトガラス、ヒバリ、スズメ、ホオジロ

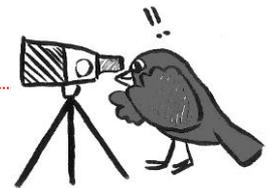
【案内役より】

前日の 30 日、連休で全国から 180 人を超える野鳥観察者が集まりました。

柵の前にはズラリとスコープ・カメラの三脚が並びました。 観察会当日も平日にもかかわらず、多くの人が集まりました。

堤防を降りるとクロツラヘラサギの群れ。若い個体が多い。 繁殖羽一羽と、ヘラサギー羽が交じる。 潮が満ち始め、西に移動する。ハマシギの大群の中にウズラシギ・サルハマシギ・コオバシギ、オオハシシギを見つける。 カモ・カモメ類は北国に帰ったのか、数は少ない。

潮が引き始め、鳥たちも遠ざかり、観察会を終了する。



■石井樋公園観察会報告（佐賀市）

【日 時】 平成 30 年 4 月 22 日

【参加者】前田鈴子、高野文子、吉澤進、高木宏子、蒲原留美、川原直嗣、佐藤幸則、友岡周一、宮原明幸、田中照美、水田利穂、水田イツエ、西田京子、野田博、野田純子、毛利孝博、平野ミサ子、宮原史枝、田辺憲子、中島修、中島由美子、江口年平、江口美生子、野口美樹、野口萌花、福田康典、川上武彦、長岡保、上村知子、矢野誠、永島博、津山悦子、上滝久美子、高山英一、古川昌高、高崎洋三、高崎由美、松原忠夫、松原はま子、島田洋、古賀郁香、田中丸雅雄、柴原とき子、青柳良子（案内役）

【観察された野鳥】カワウ、コサギ、アオサギ、カルガモ、トビ、バン、オオバン、クサシギ、イソシギ、キジバト、ヒバリ（声）、ツバメ、ヒヨドリ、ウグイス（声）、コサメビタキ、シジュウカラ、ホオジロ、アトリ、カワラヒワ、スズメ、ハシボソガラス、ハシブトガラス（22種）

【案内役より】

「ラジオで案内を聞いたので・・・」と会員外の方がたくさん来て下さいました。

宮原支部長が頑張っている「報道機関への広報」が役立っていることを実感しました。 計画を立てた段階では「水ものがたり館主催」でしたが、都合で野鳥の

会のみのお観察会になりました。 お目当てのアオバズクはまだ来ていません！
今頃日本に向けて必死に飛んでいることでしょう！

冬に観られるアトリと夏になるとやって来るコサメビタキが観られたのは、この
時期らしさだったようです。

鳥以外ではアオスジアゲハ・ヒメウラナミジャノメ・オオスズメバチ・クマバチ・
セイヨウミツバチなど昆虫類が活発に活動し始めた様子や、野草がきれいに咲いて
いたことなど「春」を感じたひとときでした。

■見島「春の渡り」探鳥ツアー報告（山口県萩市）

【日 時】 平成 30 年 5 月 4 日～6日

【参加者】加藤芳隆、蒲原留美、古賀あやか、鈴木紀久子、角紀男、中島由美子、中原
正義、橋本泰博、原秀親、三城紀代子、水田稔、脇田雅江、宮原明幸（案内役）

【観察された野鳥】マガモ、カルガモ、カイツブリ、カラ
スバト、キジバト、オオミズナギドリ、ウミウ、アカ
ガシラサギ、アマサギ、アオサギ、ダイサギ、チュウ
サギ、コサギ、オオバン、セグロカッコウ、ツツドリ、
アマツバメ、ヒメアマツバメ、セイタカシギ、チュウ
ジシギ、オグロシギ、チュウシャクシギ、アオアシシギ、
タカブシギ、キアシシギ、イソシギ、キョウジョシギ、
ウズラシギ、ウミネコ、ミサゴ、ハチクマ、トビ、ハイ
タカ、カワセミ、ブッポウソウ、チョウゲンボウ、
ハヤブサ、サンコウチョウ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ショウドウツバメ、
ツバメ、コシアカツバメ、イワツバメ、ヒヨドリ、ウグイス、キマユムシクイ、
エゾムシクイ、センダイムシクイ、メジロ、ムクドリ、コムクドリ、クロツグミ、
シロハラ、ツグミ、コルリ、ジョウビタキ、ハシグロヒタキ、イソヒヨドリ、エゾ
ビタキ、コサメビタキ、キビタキ、スズメ、マミジロツメナガセキレイ、キセキ
レイ、ハクセキレイ、タイワンハクセキレイ、セグロセキレイ、タヒバリ、カワラ
ヒワ、コホオアカ、キマユホオジロ、ノジコ、アオジ



（写真提供：橋本泰博さん）

※コメントは長文のため「皆さんからのお便り」のページに掲載しています。

■脊振山観察会報告（神崎市）

【日 時】 平成 30 年 5 月 13 日

【参加者】青柳隆、青柳良子、岡崎章、蒲原留美、川原直嗣、高山昭彦、田辺憲子、
徳淵義実、中原正義、馬場清、福田康典、宮原明幸（案内役）

【観察された野鳥】キジバト、ジュウイチ、ホトトギス、コゲラ、アオゲラ、カケス、
ハシブトガラス、ヤマガラ、シジュウカラ、ヒヨドリ、ウグイス、メジロ、ミソ
サザイ、オオルリ、キセキレイ、スズメ、カワラヒワ、ホオジロ、ソウシチョウ

【案内役より】

脊振山下宮の集合時間の頃よりポツリポツリ落ちだしましたが 11 人も参加が
ありますので決行しました。 車で山頂 4 km 手前まで移動し歩くコースです。

傘をさし、カッパを着込んで、ミズキやウツギ・フジの花の咲く山道を登ります。冷たい雨だけでなくガスもかかっています。

なかなか姿は見えませんがオオルリ・ミソサザイ・カケスやホトトギス、遠くにジウイチの声も聞こえていました。

登り出し1km地点あたりで雨が本降りとなり、引き返しました。



県外探鳥ツアーのご案内

梅雨と暑さを吹っ飛ばせ！

①鳥取県「八東ふる里の森」バードウォッチング

【日 時】 6月16日(土)～17日(日)

【探鳥地】 鳥取県八頭町「八東ふる里の森」

【見どころ】 扇ノ山の中腹標高約700mにあるブナ林の森です。林内には自然観察と森林浴を楽しめる遊歩道が整備されています。(鳥取県支部の探鳥地案内より) 管理されたキャンプ場でバンガローに泊ります。アカショウビンやコノハズクなども見られますよ。出発は、朝7:00を予定しています。

費用は1万円前後、集合時間、場所など詳しくは加藤さんに問い合わせてください。

【申し込み先】 加藤 芳隆さん(上峰町・携帯:090-4510-1560)まで。

②長崎県「雲仙あざみ谷」バードウォッチング

【日 時】 7月22日(日)午前6時～夕方

【探鳥地】 雲仙市、雲仙あざみ谷

【見どころ】 雲仙妙見岳直下の涼しい「雲仙あざみ谷」の水場で、水浴びにやってくる鳥たちを観察します。普段見ることのできない鳥の水浴び。感激の1日になることでしょう。例年、キビタキ・オオルリ・クロツグミなども観察されています。20分ほどアップダウンのある登山道を歩き、水場に腰を据えて、昼過ぎまでじっくり観察します。現地の都合で、参加者は10名までとします。集合時間、費用など詳しくは橋本さんに問い合わせてください。

【集合場所】 佐賀市大和町の石井樋「水ものがたり館」駐車場に集合、数台に分乗。

【申し込み先】 橋本 泰博さん(みやき町・携帯:090-8833-6130)まで。

※ いずれも詳細はそれぞれの担当者に直接問い合わせてください。





皆さんからのおたより



● 「ケツァールをたずねて ～コスタリカ探鳥で思ったこと～」

・・・青柳 隆さん・良子さん（小城市）

中米コスタリカは、北緯8度から11度の間に位置し、東西をカリブ海と太平洋で挟まれた熱帯にあります。とはいえ国土の約三分の一が3000m級の高山とその山間に開かれた800mから1400mの高原盆地です。そのため内地の気候は涼しく、探鳥地の先々の気温の低さにびっくりしました。

国土の面積は北海道の6割ほどですが、標高差による自然環境の差異が野鳥を含む野生動植物の複雑な生態系をつくっています。今回、短い滞在期間ではありましたが、探鳥を通してコスタリカの自然大国ぶりを感じ取ることができました。

コスタリカの国土の約5割が森林でその半分以上は国立公園や保護区です。環境保全に力を入れるにつれ観光客が増加し、1980年代には約30万人だった観光客は、2015年に260万人超と大幅に増えています。また、バナナとコーヒーが輸出産業の中心ですが、再生可能エネルギーによる発電がほぼ100%となる驚くべき目標を実現させようとしています。私が滞在したのは2月21日から27日までのわずか1週間でしたが、観察した野鳥の数は、日々の鳥合わせで新しい種類がどんどん増えて、191種にのぼりました。野鳥を含めて、コスタリカには地球上の全動植物の5%がいるとされ、希少種も多く、その多様性が最大の魅力と紹介されています。探鳥しながら吊り橋を渡っていると、川にはカワウソやワニが、樹木の枝にはナマケモノの姿や、家族らしいホエザルの一団。ジャングルの中の道では、葉切りアリの行列に何度も遭遇したり、宿舎の庭ではイグアナやイノシシが人間を恐れずに「共存」しているのです。私にとって、まさに「自然大国の舞台で過ごす」思いをした1週間でありました。

私がコスタリカ行きを思い立った理由の1つは、それまで度々テレビ等で紹介されていた世界一(?)美しい鳥「ケツァール」(カザリキヌバナドリ)やホバリングしながら花の蜜を吸う「ハチドリ」を自分の目で観てみたいという好奇心からです。

しかし、お目当てのケツァールに出会うのは容易ではありませんでした。

現地案内人「露木さん」の何とかしてケツァールを見せてあげたいという強い思いが日に日に伝わって来て、4日目、ようやく100mぐらい先に♂のケツァールを発見しました。しかし、喜んだのも束の間! あまりにも多い観察(見物)客に辟易したのかわずか5分程で突然森の奥へと飛び去ってしまいました。それでも露木さんは「よかった!」と胸をなでおろしておられました。

コスタリカ在住16年の露木さんは、年ごとに世界各国からケツァールを求めて訪れるバードウォッチャーの数が増え続け、カメラのフラッシュや大声で騒ぐなど、撮影マナー・観察マナーの悪さによって、なかなか姿を見せなくなったこと、また好物の「アボカドの実」が樹木の伐採によって減ってしまった・・・など環境の悪化を嘆いておられました。

このようなことはハチドリやコンゴインコについても言えるのだそうです。

私がケツァールと出会ったサン・ヘラルド・ドータにはスイス、ドイツ、中国などからの



たくさんのバードウォッチャーがいました。ケツァールは絶滅の危ぶまれる希少な鳥ではありますが、その他にもたくさんの種との遭遇率も高いことから、このように多くの人々が集まるのだらうと思います。

今回のコスタリカへの探鳥の旅は観察と保護を一体のものとしてとらえた取り組みが世界共通の課題であることを思い知らされた旅となりました。

まだまだ言い尽くせぬほどいろいろなことを感じたり、考えさせられることがありましたが、思いの一端を述べるにとどめたいと思います。

●「この春出会えた鳥達」・・・徳淵 義実さん（鳥栖市）

この春は、会員仲間のお蔭もあって色々な鳥に出会えました。

2月上旬、情報を頂き横島干拓でトラフズクに会えました。地元の人によるともうすぐこの竹藪は無くなるそうです。以前、この近くに来ていたオオモズもその林が無くなり来なくなりました。この竹藪は何とか残ってほしいと願っています。

横島干拓では、仲良しマガンとアカツクシガモにも出会いました。不思議な事にこの2羽は何時も一緒に行動していました。3月2日までは一緒に居ましたが、7日にはマガンは見かけず、お先に一人で渡って行った様です。

残されたアカツクシガモも3月18日には見かけなかったもので、無事に渡って行った事でしょう。他に、チョッと大きめのハヤブサとも出会いました。このハヤブサはお腹の模様が縦柄で「オオハヤブサ」とも「ツンドラハヤブサ」とも呼ばれていました。どなたか正式名を教えてください。



マガン&アカツクシガモ オオハヤブサ? ツンドラハヤブサ?
←トラフズク

もう一度カラムドリに会いたいと、4月上旬に野母崎へ出向きました。行く途中で念のため、以前コオリガモ情報をいただいた池に立ち寄ったところ、キンクロハジロやスズガモに混じってコオリガモ♀が元気に遊んでいました。

チョッと遠かったけど、3時間程かけてなるべく近づいてくれるのを待って確認写真程度には写せました。コオリガモは佐賀県では初めての確認らしくて、発見者及び情報を頂いた方々に大感謝しながら次の目的地 野母崎へ向かいました。

野母崎はこの春は鳥が少ない印象で、出会った鳥見の人とは「居ないですねー、静かですねー」と挨拶する状態でした。そんな中で、かなり濃いムネアカタヒバリに出会いました。他に若干の情報は耳にしましたが、カラムクにも会えず一旦帰宅致しました。

その後4月中旬に再度、野母崎へ出掛けました。雨が一瞬上がった時にコムクドリ約30羽の集団に会いましたがカラムクドリは交じっていないようでした。

そうした中、ズグロチャキンチョウ情報が耳に入り、他の情報も耳にしましたが、翌朝からズグロチャキンチョウに重点を絞って過ごし、若干あきらめ掛けていた時に突然出会えました。美しく初見でもあり感動し、あわてふためきながらどうにか写真に収める事ができて、目標のカラムクドリには出会えませんでした。足取り軽く帰路につけました。



コオリガモ



ムネアカタヒバリ



ズグロチャキンチョウ

5月1日 佐賀支部探鳥会は、フェンス迄近づいても鳥が飛び立たない、丁度良い潮の高さで、夏羽のシギたちも沢山居たようですが、私は主にコアジサシに夢中でした。コアジサシが少し沖の大きな流木にペアで止まり、他のアジサシが近づくと口を開けて威嚇していました。しばらくするとオスが魚をメスにプレゼント。アジサシの求愛給餌は初めて見ました。まだまだこれからの探鳥会も楽しみに参加したいと思います。

●「カツオドリに会いに」・・・八木 ひとみさん（佐賀市）

昨年聞いていた、長崎県野母崎で瀬渡し船に乗ってカツオドリが見られるという夢の企画が、加藤さんのお世話で4月10日実現しました。前日は暴風雨... 当日は晴れていましたが、長崎は風が強く、船を出してもらえるか心配でした。

ホオジロハクセキレイを見て船着き場へ移動。

船は途中問題ありませんでしたが、カツオドリの岩場近くでは揺れて揺れて。

30羽ほどが岩場で休んでいました。写真を撮ろうとふんばりましたが船が揺れて、じっくりと観察はできませんでした。それでも大満足。コマドリの囀りを聴いて昼食にトルコライスを食べた後は、おまけの鳥見。午後にたくさんのノビタキが渡ってきたそうで、行く先々にノビタキがいます。

灯台公園でのんびりしているとヒレンジャク、アカハラ、シロハラホオジロに会えました。収穫が多く大満足の1日でした。



カツオドリ

※デジブックもご覧ください。 『カツオドリに会いたい』

<http://www.digibook.net/d/cfd4a953b18c962026941050c086d68e/?m>

チュウベイ♪ 『この風では・・・』と灯台に着く前に早弁です。
ムシクイ類さえ出ません。『「八丁八反」なら少しは・・・』と向かうことに。
突然電話、林さんです。『ダムの下の方田圃にハシグロヒタキが出ている！』 加藤さん
の出番！ 宿のボロ車でピストン輸送、人だかり目掛けて走ります。
手前の一団はキガシラセキレイ♀タイプを観ておられました。そんなの無視！
その先の一団がハシグロヒタキです。

警戒もせず動き回る姿をたっぴり舐めまわします。 ???
写真図鑑と違う。図鑑のイナバヒタキに近い！『イナバヒタキ
では？』 先の方々でも意見が割れたそうですが『眉班の位置
と風切り羽の色から、ハシグロヒタキ♀若鳥』との結論だそう
でした。ハシグロヒタキの脇の田の水路にはマミジロツメナガ
セキレイも1羽。 また直ぐ側のヤナギの木には、風を避けて
コホオアカ3羽、ノジコ・キマユホオジロも茂みの中で隠れて
います。「八丁八反」を一周、「ジーコンポ」と奥の磯浜を
確認後、宿に向け歩きます。



ハシグロヒタキ
(写真提供：橋本泰博さん)

鳥影は薄く、アマサギ・ダイサギ・チュウサギ・コサギ・アオサギ、アカガシラサギが
遠くを飛びました。シギ類は、オグロシギ1羽・アオアシシギ・タカブシギが数羽入って
いるくらい。 鳥のいない田圃をイシガメが蠢き大きなシマヘビが泳いでいます。
ただミサゴ・トビにツバメは沢山飛び回っていました。
初日はここまで。北国屋へ戻り『ハシグロヒタキに乾杯♪』 早々と床に着きます。

2日目、5時出発で宿の周りで探鳥。

今朝も風が残っています。「砂見田の浜」にはタイワンハクセキレイ、「観音平」への道
ではツグミ大の影が動きます。

電柱にはコムクドリ・・・昨夜、入って来たのでは？と期待しつつ朝食に戻ります。
夜中より出られたバーダーの情報では「大峠」でヨタカ4個体が見られ、セグロカッコウ
も鳴いていたとのこと。

鈴木さんもすっかり回復され8時より探鳥開始。「大峠」への急坂を上ります。
キビタキが出ます。 斜面の森に止まったハヤブサを中島さん目ざとく見付けられます。
その直ぐ側の木へ2~30羽程の小鳥の群れが飛び込みます。 集団で渡って来たので
しょう？ 同定は出来ません。

「大峠」より「キビタキの杜」へ。 時々鳥影が動くだけムシクイの影は皆無です。

「みしま牛の放牧場」へ下りましょう。

ここで今日より参加の広島協田さん京都の三城さんと合流。

途中の水場は空、放牧場の出口でやっとエゾビタキが1羽出てくれました。

道の上をハチクマも過ぎります。

鳥が出ないとドッと疲れが出ます、放牧場で休憩しましょう。

今、入って来たか？ やたらツバメが多い。手持無沙汰にツバメに双眼鏡を合わせます。
意外や意外、コシアカツバメ、イワツバメ、亜種ムネアカツバメ、もちろんただツバメに
アマツバメ、ヒメアマツバメまで乱舞しています。

鳥さえ出れば元気がもどりますダムへ向け移動です。 ダム手前のカーブ、斜面の上を影

が過ぎります。空抜けで真っ黒ですが翼に水色の班 『ブッポウソウ!』 直ぐに飛び去りましたが、暫くして戻って来ます。

この場所がお気に入りなのか、しきりに飛び回りますそれも2羽。

カメラマンの方々は、止まってくれるのを期待して粘られます・・・鈴木さん一人この場を離れられました。昨日は船酔いで臥せっておられて（涙）ハシグロヒタキが見られてなく、早く行きたい様子・・・おつき合いします。残念ながら、抜けたようで見当たりませんでした。ブッポウソウ組とダムで合流、お昼です。

毎回ですが、宿の弁当開くたびに不満たらたら（鳥の出ない日は特にひどい!）中身は漬物・梅干し・鱈の味醂干し+αに飯（αは、初日ウィンナー+椎茸昆布、2日目赤いウィンナー+冷凍メンチカツ、3日目スパゲティ）ろくすっぽ店も無い島ですから贅沢は言えませんがネ! コンビニエンスストアで簡単に弁当が手に入る文明生活者?には不満、価格も640円と割高ですから。

午後は、「八丁八反」を探します。八丁八反、他のバーダーは皆無。昨日より増えた鳥はタヒバリ1種だけ、今日も芳しくありません。

アカガシラサギが飛びます。下りたのは東の倉庫の奥。橋本さんが探しに行かれます。

見当たりません。途中カーキ色ツグミ大の鳥を見られますが... 同定出来ません。

同定出来なかった鳥は皆、珍鳥?（笑）残念でした。

「シーコンポ古墳群」の磯浜へツメナガセキレイが入ってないか確認に行きます。

ツメナガセキレイは見当たりませんが、チュウシャクシギとキョウジョシギが羽を休めていました。飛び去ります、近づき過ぎました! 大授の干潟で見慣れたシギですが海原を飛ぶ姿は別物でした。

鳥を探し探し見島ダム方面へ。ダム横の林よりカ・カ・カ・コ♪カ・カ・カ・コ♪ 4音1節の独特の歌声、セグロカッコウです（嬉）。

近い! 探しますが姿は見せてくれませんでした。

ダムを超え、先のブッポウソウの場所。いつの間にか暮れ出しています。

ブッポウソウがチラッと飛びますが止まってはくれません。放牧場の手前の空を2~30羽の鳥が通過します。カシャ・カシャ・カシャ、水田さんが写真に収められます。

早速、皆で確認。夕暮れの空抜けシルエットだけ。クチバシは太く短い。カワラヒワじゃない? シメとも違う? ベテランの橋本さん『シギ類かな』??? こちらは尾をクチバシと間違われています（笑）それくらい分からない画像、同定出来ません。

後は、影が過ぎれば止まり、コムクドリが出たら止まり、途中バーダーに出会えば止まり、宿へ戻りました。良く歩きましたあ、中原さんの万歩計32,000歩でした。

夜は、セグロカッコウに乾杯。

最終日、今朝も5時より周辺探鳥。「砂見田浜」でタイワンハクセキレイを確認、昨年チョウセンウグイスが鳴いていた道を確認、チュウジシギの出た場所確認・・・加藤さんが飛んで逃げるジシギを見られました。

「ミソゴイの杜」へ。ポポッ・ポポッ・ポポッ♪ツツドリが鳴いています。ウウー♪カラスバトの声。ミソゴイの居た道は草が覆い荒れてしまっていました。「幼稚園跡」を抜け宿へ、朝食・精算・帰り仕度。今日の予報は午後から雨。『午前中、八丁八反を廻り、弁当は宿で・・・』 言っている間にポツリ・ポツリ・降り出します。



急遽、『鳥もいないし』と3便最終の帰りを2便に変更、荷物を持って宇津の乗船場へ。船は11時、少し時間が有り雨も止んでいます。

観音平へ。脇田さん・三城さんは明日までの予定、先に観音平の松林で観察されていました。松林には、チョコチョコ動く鳥影ムシクイです。かなりの数です頭中央線が有ります。センダイムシクイ！昨夜入って来たのでしょうか？

三城さん達はミヤマヒタキも見たそうですが、私達に探す時間はありません。

戻り道、サンコウチョウ♀が道を過ぎり藪の中へ。古賀さん、しっかり双眼鏡を合わせコバルトブルーのアイリングと茶羽を確認、大喜び。

今回の見島はここで終わり、萩港でこちら恒例お土産の「夏みかん丸漬」を買って帰路に。二日後、京都の三城さんよりお礼のメールが来ました。

観音平で見たと思ったミヤマヒタキはムギマキの見間違いだったそうです。

6日はムギマキ・カッコウ・バンとイスカ30羽程を見たそうです。

放牧場の手前で見た2~30羽はイスカの群れだったのでは？とのことでした。

年々、渡りの時期が早まって来ているようです。今年はジャバライバラの黄色い花も咲き、5月末に渡るコウライウグイスの便りもありました。

来年からは見島探鳥行は4月末で計画し、連休は野母崎（樺島）が良いかも♪

●「この時期の鳥たち 2018」・・・山澤 健一さん（茨城県神栖市）

今年は桜の開花予想が昨年比べて早いと予想とされていたので、夏鳥の渡りも早いと思っていたが（昨年4/12に神栖市の対岸の銚子市の君ヶ浜でオオルリを初認）なかなか君ヶ浜では見れず4/20を過ぎてしまった。渡りのルートが変わったのか、千葉市の方では見れたらしい。その後君ヶ浜でも見られたが、数が少ない上に滞在期間が短く撮影できたのは4/28のサンショウクイだけであった。

因みに昨年はコマドリ、オオルリ、キビタキ、ツツドリ、コムクドリ、サンショウクイ、カッコウなどを観察した。雲泥の差であったが珍鳥（たぶん箆ぬけ）のヒメコンドルは夏鳥が少ないせいもありじっくりと見ました。

これ以外にも3月の中旬には地元の漁港でビロードキンクロを観察しました。



サンショウクイ



箆ぬけ？のヒメコンドル



ビロードキンクロ

●「宝塚野鳥の会の皆さんをお迎えしました」・・・馬場 清さん（嬉野市）

4月19日（木）兵庫県宝塚野鳥の会の方々、二十数名が東よか干潟にシギ・チドリの観察に来られました。事務局長の中村さやかさんからの依頼で、当支部の東よか干潟のスペシャリスト（ラムサール湿地管理員）の田中丸雅雄さんと肥前鹿島干潟（ラムサール湿地管理員）の馬場清がお迎えしました。

阪九フェリー&マイクロバスで8時40分に到着されました。

お互いの自己紹介と東よか干潟の一通りの概要を説明して、早速、干潟へ。当日は中潮で満潮時の潮位は少し低く、大分遠くに水鳥の群れが観えます。宝塚野鳥の会の大半の方は東よかは初めて様でした。どなたかから歓声が上がった。 ”すごい、すごい” と。シギ・チの種類之多さと羽数の多さに感心されたのでしょうか。

「この時季は少ないですよ」「もう少し早い冬季はこれの倍ぐらいは観察出来ますよ」と話すと次回は是非冬季に来ます、と言っておられた。

潮も岸边に近くなり、肉眼でも観える様になり、「より確実に大きく観たい、種類を沢山観たい、珍鳥を探したい」がバーダーの気持ちです。

足元のがた土は気にせず、スコープをのぞいたり、写真を撮ったりと忙しいようです。

約3時間の観察でクロツラヘラサギ、ミヤコドリ、コオバシギ、大量のハマシギなど約60種を確認。後ろ髪を引かれる思いで、東よか干潟の観察会は終了した。

昼食の会場は“丸善”の有明海産品のフルコースです。ムツゴロウやエツを初めて食されていた。干潟のエイリアン“ワラスボ”を見て驚きのまなざしも見えた。

午後は白石町の蓮田へ行くが、レンコンの植え付け準備や田んぼの耕作、水路の工事など作業する人達が多く、チュウシャクシギを2～3羽観ただけで他はいなかった、白石調整池へ移動するが、ここも何時も観ているカモやオオバンなど数種類でした。

古い干拓堤防で記念の写真を撮り、佐賀市内経由で帰路の途につかれた。

大変お疲れ様でした。また、冬季の時季にお越しく下さい。

なお、後日、宝塚野鳥の会会長・片山 忠 様より添付のお礼のメールが届きました。

田中丸様、馬場様、（写）中村さやか様

このたびの当会の東よか干潟探鳥会では大変お世話になりありがとうございました。

事前調査されたり、当日の親切丁寧なご案内に参加者一同感謝いたしております。

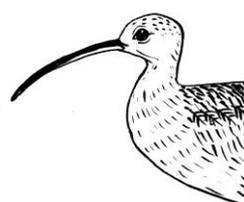
おかげさまで無事に終了することができました。厚くお礼申し上げます。

今回の出現種数は60種にもなりました。たくさんのシギ・チドリを見ることができて、全員が大満足でした。東よか干潟のすばらしさを関西でもPRいたします。

機会があればまた行きたいです。関西にこられるときはお声をかけてください。

今後ますますのご活躍をお祈り申し上げます。まずはお礼まで。

宝塚野鳥の会会長 片山忠





皆さんからの野鳥&生きもの情報



■八木 ひとみさん (佐賀市)

4月15日【佐賀市廃棄物最終処分場の草地】 コシャクシギ 6羽

【白石町】コオリガモ♀

4月30日【白石町】コチドリ、クサシギ、タカブシギ、シマアジ、マミジロタヒバリ

5月 3日【佐賀市下水浄化センター北のハス田】タカブシギ、ヒバリシギ

【嘉瀬川河口】チュウシャクシギ

【白石町】タカブシギ、オオヨシキリ、ツバメ



コシャクシギ



タカブシギ



オオヨシキリ

デジブック『春の渡り鳥 県内編』を作りました。

今年の春の珍客はコオリガモ、コシャクシギ、オウチュウでした。

<http://www.digibook.net/d/d6d48f5ba1c8b62d2e500044929496da/?m>



最近の新聞・情報誌の記事から

記者
日記

聖地の価値

山口 源貴 コンテンツ部映像写真担当

「全国回ってきましたが、これほどの数、種類が観察できる場所はほかにはありませんね。柵があるので、生息地がバードウォッチャーに荒らされないし」。大型連休を利用して来ていた野鳥の会岐阜県支部のメンバーは環境を賞賛し、こう続けた。「地元の人にこの価値をもっと知ってもらえるといいですね」

確かに、野鳥愛好家には「聖地」で、国際的に重要な湿地を保全するラムサール条約にも2015年に登録されたが、野鳥愛好家以外の一般客は少なかつた。

身近にある「日本一」の価値。県外から友人が来たら、まずは東よか干潟を見せてあげようと思う。

一斉に飛び立ったシギの大群に野鳥愛好家から歓声が上がった。視界を埋め尽くす数万羽の羽ばたき。一つの生き物のように集団で飛び回る様は圧巻で、夢中でシャッターを切った。

5月初旬、渡り鳥の飛来がピークを迎えた佐賀市東与賀町の東よか干潟で、日本野鳥の会佐賀県支部の観察会に参加した。会員に教えてもらいながら、絶滅危惧種のクロツラヘラサギやズグロカモメ、コアジサシなど、両手で数え切れない種類の渡り鳥を見ることができた。

(18/5/16 付け：佐賀新聞)



○：白石町福富下分に住む木下綾音さん(12)が、自宅の窓の外に白く小さな鳥を見つけた。「最初は小鳥と思っただけど、よく見たらスズメでびっくり」。白いスズメは縁起が良いとする言い伝えもあるという。

○：日本野鳥の会佐賀県支部の宮原明幸支部長によると、白いスズメはメラニン色素の欠落による遺伝子欠陥で、羽毛の色素がなくなつた白化現象。まれに発見されるが、白い姿は他のスズメより

幸運の白いスズメ?



ちょっとした話

木下さん宅の屋根で巣作りをする白いスズメ＝白石町福富下分

も目立ち、「夕カなどから捕食されやすく、長くは生きられないかもしれない」と危惧する。

○：スズメは最近、近くの枝を持つてきて、屋根の付近にせつせと巣作りを始めた様子。祖父の善明さん(67)も「朝から熱心によく働く」と感心する。4月から中学に進む綾音さんは、「温かく見守つていきたい」と、突如現れた、幸運の白いスズメを笑顔で見つめていた。

(岩本大志)

↑ (18/4/6 付け：佐賀新聞)
← (18/5/13 付け：佐賀新聞)

読んでナルホド

新書は、知識や教養を身につけるために読む本というイメージが強い。でもときには目的もなしに、ただおもしろがつてさらっと読みたい。わたしはそんな新書のコレクターだ。

最近の収穫は、ジエニファー・アッカーマン「鳥！ 驚異の知能」(鍛原多恵子訳、講談社ブルーバックス・1404円)。人間の脳は自然界最高の「賢い脳」だが、鳥類だって負けてはいない。実験や観察のエピソードを楽しく読み流しているうちに、専門家が何をどのように研究しているのかわかる。短章形式なのでちよつとしたスキマ時間にもどうぞ。知っている人の顔を見分けるハトの認識力や、木の実を割るため

「鳥の研究」を知る 人間的な姿、より身近に



に自動車にひかせるカラスの知能はよく知られているが、鳥の知能はさらに多様な場面で発揮される。単を特定の色で美しく裝飾する鳥、広範囲に少すつ隠した食料の場所を正確に覚えている鳥、異性を誘惑するための複雑な歌を先生について習う鳥もいる。それら

の行動はなんと「人間的」に見えることか。過去の記憶と未来の計画をもち、他者の心を読み、贈り物も悪ふざけもする。これ一冊で、すっかり鳥好きに。

さて、誰かの研究成果を読むだけでは物足りない方は、自分で鳥を観察してみたいかが。松原始「カラスと京都」(旅するミシン店・1620円)を読むと、カラス観察が楽しくなる。

大ヒット作「カラスの教科書」の著者の、笑える青春記だ。万事がちよつとずつうまうまいかない学生生活に翻弄されながら、熱心に追いかけていた町なかのカラスたち。京都という世界的観光都市においてさえ、これだけの自然観察ができるのだ。学問の裾野でモタモタと地道にもがく一学生は、それでもちゃんと知の頂につながつていることを感じさせて、気持ちがいい。(渡邊十絲子・詩人)



有明海の満潮時刻 (六角川観測塔)



※潮高 5~6m前後、午前9時頃からお昼頃に満潮を迎える日時を掲載しています。

6月1日	10:19	5.1	7月1日	10:35	5.2
6月2日	10:49	5.0	7月2日	11:06	5.0
6月3日	11:18	4.8	7月3日	11:38	4.9
6月14日	9:14	5.5	7月13日	9:00	5.6
6月15日	10:00	5.5	7月14日	9:51	5.7
6月16日	10:45	5.5	7月15日	10:38	5.7
6月17日	11:28	5.3	7月16日	11:22	5.6
6月28日	8:53	5.2	7月28日	9:13	5.3
6月29日	9:29	5.2	7月29日	9:49	5.4
6月30日	10:03	5.2	7月30日	10:22	5.4
			7月31日	10:54	5.3

満潮時刻と潮高をたしかめてから行こう!

- 東よか海岸
潮高 5.0m 満潮の2時間前くらいがベスト!
- 鹿島新籠海岸他
潮高 4.0m 満潮の1時間前後がベスト!

満潮時には、残された干潟に鳥が集まり、近くで見やすい状態になります。ただし、小潮だと遠すぎるし、大潮になると干潟が水没してしまつて、鳥が移動してしまいます。



近隣地区の観察会情報

日本野鳥の会本部HPにも最新の探鳥会情報
がありますよ！ → <http://www.wbsj.org/>

■日本野鳥の会 福岡支部 (参加費：会員 100 円 一般 300 円 中学生以下無料)

日時：6月3日(日)、7月1日(日) 8:00～11:00 (定例探鳥会) 集合時間にご注意を！

場所：福岡市・今津、雨天中止 / 集合：9:00 玄洋高校北西の端道路

日時：6月5日(火)、7月3日(火) 10:00～ (定例探鳥会) 集合時間にご注意を！

場所：春日市・春日公園、雨天中止 / 集合：10:00 旧公園管理センター前 (第5駐車場横)

日時：6月9日(土)、7月14日(土) 9:00～12:00 (定例探鳥会)

場所：福岡市・大濠公園、雨天中止 / 集合：9:00 公園ボート乗り場前

日時：6月10日(日)、7月8日(日) 9:00～12:00 (定例探鳥会)

場所：福岡市・和白海岸、雨天中止 / 集合：9:00 JR 和白駅前の和白公園

日時：6月17日(日)、7月15日(日) 8:00～11:00 (定例探鳥会) 集合時間にご注意を！

場所：筑紫野市・天拝山、雨天中止 / 集合：9:00 天拝山歴史自然公園水上ステージ横

日時：6月24日(日)、7月22日(日) 8:00～11:00 (定例探鳥会) 集合時間にご注意を！

場所：福津市・久末ダム、雨天中止 / 集合：9:00 久末ダムの多目的広場横の駐車場

■日本野鳥の会 筑後支部 (参加費：会員 100 円 一般 200 円 高校生 100 円 中学生以下無料)

日時：6月3日(日) 10:00～ (定例探鳥会)

場所：小郡市・花立山 / 集合：10:00 小郡市干潟の城山公園駐車場

担当：伊東正幸さん 携帯：090-2085-0029

日時：6月10日(日) 9:00～ (定例探鳥会)

場所：高良山(久留米市) / 集合：9:00 久留米市御井町・高良下宮社

担当：溝田泰博さん 携帯：090-4357-3043

日時：6月16日(日) 9:00 奥八女源流の森・シオジ原生林探鳥会(企画探鳥会)

場所：八女市黒木町 / 集合：9:00 八女市黒木町「ふじの里」

担当：野田達行さん TEL：0944-58-1672

日時：6月24日(日) 9:00～ (定例探鳥会)

場所：大牟田市・延命公園 / 集合：9:00 延命公園の体育館西側広場

担当：野田達行さん TEL：0944-58-1672

MINI NATURE GALLERY

(撮影：馬場 順一さん)



くたびれかけのヤマシャクヤク



馬？ 鳥？ ギンリョウソウ！



新緑の自然林

～野鳥さが原稿募集中～

①詩歌・句・イラスト募集！ 皆様の作品をお待ちしています。気軽にご参加ください。

②投稿・ご意見などをお寄せください。(編集部：馬場順一)

〒841-0053 鳥栖市布津原町 61 A12-11 携帯：090-5084-2649

(Eメール) f_baba841@ybb.ne.jp

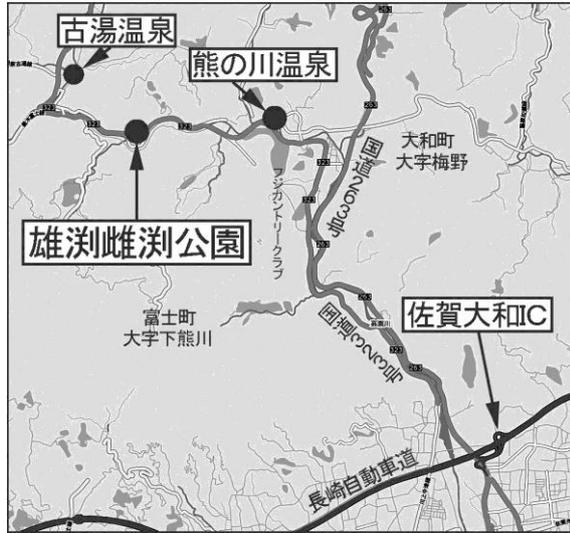




観察会会場までの案内

交通手段が無い場合は、担当者までご連絡！

①5月27日 佐賀市・雄渕雌渕



②6月3日 佐賀市・石井樋公園



③6/17 ⑥7/29 ⑦8/26 東よか干潟



⑧8月26日 佐賀市・ツバメのねぐら



“編集Bの独り言” ほぼ2年ぶりの独り言です。前は連休&登山ネタを書きましたが、今回も同じネタです。(^^) ゴールデンウィークに皆さんとは少しずれた日程で、7連休も取れました。(前代未聞!) 半分は雨で動けなかったのですが、英彦山、糸島の立石山、九重の黒岳に登りました。特に男池~黒岳は2006年に支部で男池~風穴の紅葉ハイクに行っていて以来でした。朝7時、男池で出発の準備をしていると、いきなり「カカカッコウ」と聴こえてきました。そのあと上空に鳥影が。まさかセグロカッコウ? 初めて聴きました。そのあともずっと鳴いていたので、スマホで録音。(鳥影がセグロカッコウかどうかは分かりません) 新緑の自然林の中、キビタキ、オオルリ、ミソサザイ、コマドリたちのさえずりのシャワーを浴び、アオゲラのドラミングを聴きながら、15年くらい前までは、支部でよく山歩き&バードウォッチングをしていたな、と思いました。(22ページに写真)





観察会などのご案内 (2018年6月～8月)

①5月27日(日)

雄渚雌渚観察会(佐賀市富士町)

[時間&場所] 8:00

佐賀市富士町上熊川の雄渚雌渚公園駐車場

[担当] 中原 正義さん(神崎市) 090-1369-8062

[見どころ] 嘉瀬川の上流部、古湯温泉、熊の川温泉の中間に位置する美しい渓谷です。
どんな鳥が出るのか、お楽しみに！

②6月3日(日) 石井樋公園観察会 & 支部総会(佐賀市)

[時間&場所] 9:00

佐賀市大和町 石井樋公園「水ものがたり館」

[担当] 青柳 良子さん(小城市) 090-1659-7353

※観察会の後、10:00から「水ものがたり館」にて、支部総会を行います。総会に参加される方は議案書をお忘れなく。

③6月17日(日) ⑥7月29日(日)

⑦8月26日(日)

東よか干潟(大授搦)観察会(佐賀市)

[時間&場所] (6/17)10:00 (7/29)9:00

(8/26) 8:00

佐賀市東与賀町の東よか干潟展望台

[担当] 田中丸 雅雄さん(佐賀市)080-1707-9225

加藤 芳隆さん(上峰町) 090-4510-1560

④6月16日(土)～17日(日)

鳥取県八頭町「八束ふる里の森」

野鳥観察会(鳥取県)

⑤7月22日(日)

雲仙あざみ谷野鳥観察会(長崎県)

※11ページに案内を掲載しています。

参加希望者は直接担当者に申し込んでください。

定員10名ほどなので、お早めに！

⑧8月26日(日)

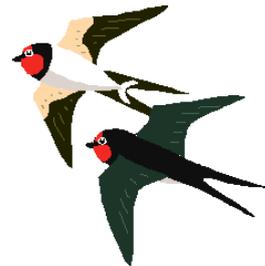
ツバメのねぐら観察会(佐賀市)

[時間&場所] 16:00 有明海漁協・大詫間支所

駐車場(早津江川の川副大橋を渡り終わって
すぐ急角度に左折したところ)

[担当] 未定

[見どころ] 春から夏にかけて巣立ったツバメの若鳥
たちが集団で休む川辺のアシ原を観察します。



共通事項

- ① 資料代、保険代として100円頂戴しています。
- ② 雨天中止。(前夜18:55のNHK天気予報で降水確率50%以上の場合、原則として中止)
- ③ 集合に遅れる時は早めに担当者に連絡し、会場に不慣れな場合は、必要な指示を受けて下さい。
- ④ 帽子、雨具、水筒などは適宜ご持参ください。
- ⑤ 場所や交通手段、便乗の可否などのお問合せは各担当か事務局まで。

「野鳥さが」 ～日本野鳥の会佐賀県支部 会報～

公益財団法人 日本野鳥の会 〒141-0031 東京都品川区西五反田3-9-23 丸和ビル

電話 03-5436-2620(代) FAX 03-5436-2636

日本野鳥の会佐賀県支部 支部長：宮原明幸

事務局：中村さやか (☎ 0954-60-4424 携帯：080-8863-5659)

〒849-1315 鹿島市三河内2974-1

郵便振替 01710-8-82339 「日本野鳥の会佐賀県支部」